

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月26日

【評価実施概要】

事業所番号	272700634		
法人名	社会福祉法人 信和会		
事業所名	グループホームピア・コミュニティ		
所在地 (電話番号)	〒031-0111 青森県八戸市南郷区大字市野沢字山陣屋36の50 (電 話) 0178-82-3870		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 19年 12月 20日	評価確定日	平成 20年 2月 26日

【情報提供票より】(平成 19年 11月 28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 12年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7人, 非常勤 人, 常勤換算 7人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(11月 28日現在)

利用者人数	8 名	男性 2 名	女性 6 名
要介護1	名	要介護2	2 名
要介護3	3 名	要介護4	3 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 82.2 歳	最低 72 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	一松堂医院、於本病院
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは母体施設に併設されており、デイサービスの利用者が「落ち着く場所」として立ち寄って休んでいかれる事もある。地区で観光化を進めており、近隣に公園や娯楽施設が点在する。入居者やスタッフが穏やかな表情でありそれぞれ個性的であることから、入居者一人ひとりがその人らしい生活ができるよう支援されている様子が伝わってくる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	空調管理については、入居者に暑さや寒さを直接確認するとともに、共有スペースや居室に温・湿度計を設置、測定し行っている。入居者の健康管理については、疾病に関する定期的な検査を行うとともに、年に一度結核健診を行っている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	スタッフ全員で自己評価に取り組み、ケアの振り返りと見直しの機会とし、ケアの向上と自己啓発に繋がるよう努力されている。そして、これらの取り組みと共に、外部評価等を通じ改善に向けた取り組みがなされている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目	事業所からはホームでの暮らしぶりや行事予定などを報告し、参加者からは町内行事などを報告しあっているほか、災害時の協力体制等幅広い討議がなされている。また、ホームへの意見や要望が出されるよう働きかけサービスの向上に活かす取り組みがなされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
重点項目	面会時や運営推進会議等で意見や要望を聞かせていただけるよう働きかけている。出された意見等に対しては直ちに解決に向け取り組んでいるほか、家族の表情や会話の中から不安や要望等を汲み取り対応できるよう努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	スタッフは町内清掃等に参加し地域との交流を深めている。近隣の中高生がボランティアに訪れたり、入居者は散歩や外出の折に近隣の方々と気軽に会話を交わす関係が作られているが、季節によっては外出の機会が少なくなる。スタッフと入居者がともに地域の一員として日常的に地域と支えあっていく関係を作り上げる事を期待したい。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念の下、事業所独自に地域密着サービスの役割が加味された理念が作り上げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は常に心に留められるようスタッフルームや共有スペースに掲示されており、実践に向けスタッフ全員が個人目標を掲げている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	職員は町内清掃活動に参加し近隣の方々との交流に努めている。散歩等で行き会ったときには気軽に挨拶や立ち話ができる顔見知りの関係が作られている。また、中高生のボランティアを受け入れ、認知症について理解してもらえるよう取り組まれている。	○	季節を問わず職員と入居者がともに地域活動や行事等に参加できるよう検討されることを期待したい。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価をスタッフ全員で行うことにより、日ごろのケアの振り返りの機会とされている。また、管理者は外部評価を実施することで気づいた事を法人代表者やスタッフと話し合い、サービスの質の向上に役立てている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からは入居者の暮らしぶりや行事等の予定を報告し、参加者からはサービスの向上に向けての要望や意見をもらい話し合っている。会議で話し合った事への取り組みについて報告している。	○	出席できなかったメンバーに会議録を配布する等して、出席できなくても会議の内容がわかるよう、また、次回に出席しやすいよう配慮されてはどうか。
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外で市の担当者とやり取りする機会は少ない。	○	現場や入居者の課題解決に向けた協働が図れるよう、市担当者のところへ出向く機会を増やし、事業所の考え方や実態を共有できるよう情報提供等する等、ホームからの積極的な働きかけを行う事が望ましい。
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は管理者研修で学んできた事を、事業所内研修で伝えたり権利擁護に関するポスター等をスタッフルームに掲示し、全職員が学ぶ機会を持てるよう取り組まれている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフは事業所内研修等で学ぶ機会があり周知している。虐待が見過ごされていないか、声掛け・態度・対応についてお互いに注意しあい虐待防止に努めている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用時に説明しているほか、利用後に入居者や家族から出された不安や疑問点に対して、その都度丁寧に説明している。		
10	12	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月手紙を通じて暮らしぶりを伝えるほか、面会時には必ず近況を報告している。状態に変化のあった時にはその都度電話で報告している。		
11	13	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や家族会など機会あるごとに、意見・不満・苦情を表せるよう声掛けをしたり、ホーム内に受付用紙を設置し入居者やご家族の思いが吸い上げられるよう取り組まれている。また、会話の中から不満の声を汲み取るよう努めている。寄せられた苦情に対しては、法人の苦情解決委員会に提出するとともに、スタッフ間でも速やかに検討しサービスの改善につなげている。		
12	16	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動は必要最小限にしている。異動がある場合は、入居者へのダメージが防げるよう早めに細やかな申し送りがされている。	○	スタッフの入れ替わりがあった時にも統一されたケアがなされるよう、個人ファイルや申し送り方法を更に工夫する取り組みを期待したい。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの経験年数や力量に合わせた外部研修に参加させたり法人内での内部研修を実施するほか、資格取得を勧め、それぞれの資格取得試験に合わせた勉強会を企画・実施している。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会を通じて研修や事例検討会等に参加し、地域の同業者とともにサービスの質を向上させる取り組みを行っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にホームを見学していただいたり、入居後には状況に合わせて面会に来ていただけるよう家族と相談する等、本人が安心して利用できるよう配慮されている。		
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に暮らしを支えあう関係をつくりあげ、スタッフは生活の様々な場面で、入居者に助けられたり教わったりし、人生の大先輩として尊敬の気持ちを持って関わっている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から直接意見を聞くほか、表情や行動等の観察によりその真意を推し測っている。また、家族からの情報を基に本人の立場になって検討するよう取り組まれている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族には日ごろのかかわりの中で思いや意見を聞き、スタッフ全員で意見交換をしたり、必要な時には主治医や看護師にも相談して作成している。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況に変化があった時には、家族の意見や要望も取り入れ新たな計画を作成している。変化がない場合でも、月に1度ミーティングで見直しの必要がないか確認されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族と話し合いながら、外出や外泊、母体施設の大浴場の利用等の要望に柔軟に対応している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する病院に受診できるよう支援している。かかりつけ医を変更する場合には病院間で情報提供がスムーズにいくよう働きかける等して、適切な医療が受けられるよう支援している。		
22	44	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の人をサービスの対象としていないが、重度化していく中で必要とされるサービスの情報提供や紹介等必要な支援をしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りやプライバシーを損ねる対応や言葉がけは行われていない。個人情報の取り扱いについても、本人・家族の同意を得た範囲で使用している。		
24	49	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の生活の流れはあるが、入居者一人ひとりの状態や希望を考慮し、柔軟な支援を行っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から後始末まで、入居者はそれぞれの力を発揮できる場面があり、食事は入居者と職員が一緒に同じものを食べ会話を弾ませている。週に一度、入居者と相談しながら旬の物を取り入れたメニューを決め買い物に出かける日がある。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時には一人ひとりの希望やペースに合わせた支援が行われているが、入浴日が決められており希望に合わせた入浴は行われていない。	○	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴できる体制について、スタッフ間や運営推進会議等で検討されてはどうか。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	月に一度、ドライブなど楽しみごとの計画を立てたり、家事・編み物・菜園・書道等一人ひとりの役割や楽しみごとを見出して支援されている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車椅子の利用者も含め、ホームの周りや町内を散歩し気分転換が図られるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修報告等を通して全てのスタッフが周知し、理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけず、怪我や事故のないよう見守りをしながら自由な暮らしを支援する取り組みが行われている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけられている	災害時における各訓練が行われている。運営推進会議を通じ、緊急時における連絡体制及び対応策についての説明が行われており、地域住民の方々に協力を呼びかけられている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は母体施設の栄養士が作成している。食事・水分の摂取量については日ごろから観察し、チェック表に記入して情報を共有しており、不足しているときは嗜好物等で補えるよう支援されている。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防のマニュアルがありスタッフ全員が常に確認できるようにしてある。また、各感染症の流行時期には学習会を行って予防対策に努めている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
34	78	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間にはソファやクッション、食卓等が置かれ、家庭的な雰囲気がつくられている。手作りの装飾品が飾られており、入居者が季節や月日を確認できるよう配慮されている。また、椅子の脚に布を巻き、引いたときに不快な音が出ないように工夫している。	○	入居者や生活状況の変化にあわせ、家族や運営推進会議のメンバー、外来者等の感想や気づきを聞きながら居心地よく過ごせるよう工夫を続けられる事を期待したい。
35	80	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの日常生活用品が持ち込まれるよう家族に働きかけている。家族写真や手作りの装飾品を飾ったり、本人が使いやすい家具の配置にして居心地よく過ごせるよう配慮されている。		

 は、重点項目。